

令和2年11月7日(土)

中日新聞朝刊(三河版)

# 日本語の壁と一緒に越えよう

インドネシア出身 ベルマタさん 西尾で教室指導員に



日本語の読み方を教えるベルマタさん=西尾市桜町の日本語初期指導教室「カラフル」で

西尾市桜町の日本語初期指導教室「カラフル」で、インドネシア出身の一色高校定期制四年、ベルマタ・スルヤ・ウィジャヤさんが、七月から学習指導員として働き始めた。来日当初は日本語ができず、「いつも誰かに悪口を言われているような気がする」と泣きじゃくっていた少女が、異国で「先生」になった。

(角野城也)

## 自身重ね外国籍の子に寄り添う

来日間もない外国籍の子が学ぶカラフル。「タタ先生」という名札を下げたベルマタさんは、隣に座った男の子に、ていねいに平仮名の読み方を教えていた。「褒めて伸ばすことが大事」と笑うベル

マタさん。カラフルの菊池寛

子室長は「子どもたちの目線

で話すからこそ、心をつかめ

ている」とほほ笑む。

ベルマタさんは二〇一六年

春、日本語を学ぶため両親と

ともに来日。豊橋市内の日本語教室に週一回、通つてい

たが、なかなか打ち解けず

「半年くらい、いつもひとり

ぼっちだった」。勇気を振り

絞って同じ教室に通うプログラ

ル人の女の子に日本語で話し

掛けたものの、振り向いても

らず、さらに心を閉ざし

た。

「話すことが怖くなり、人

と目を合わせることができなくなつた」とベルマタさんは

味方だよ」

言つ。来日から一年後に入学した高校からの帰り道。バスを降りて家が見えると、涙が止まらなくなつた。

転機となつたのは一学期の定期テスト。クラスで四位となり、日本で初めて自信が生まれた。挑戦する勇気が湧き、英検二级も合格。まじめな姿が関係者の目に留まり、指導員就任への打診を受けた。十月には県内の定期制・通信制高校生によるスピーチコンテストで二位に輝いた。

「今はもう変わりました。

疎外感を感じることはあります

せん」。今は英語と日本語を完璧に習得するのが目標で、大学の国際文化学科への進学を目指す。

カラフルでベルマタさんは、日本語の壁にぶつかる子どもたちを見ていると、よく昔の自分を重ね、心中で語り掛けるという。「悩みすぎないでゆっくり勉強していけばいい。みんな、あなたの